

第16回

台東区子供歴史・文化検定

解答と解説（小学生用）

解説文の最後に、参考として『台東区歴史・文化テキスト』の頁数を掲載しています。

台東区教育委員会



問1. 正解 ウ

上野公園には摺鉢山古墳すりばちやまこふんから東京国立博物館にかけていくつもの古墳こふんがありました。現存する摺鉢山古墳は1500年ほど前につくられたと考えられています。

(第三版14・15頁、第四版13・14頁)

問2. 正解 エ

寛永寺は幕府ばくふの庇護ひご(庇かばって護まもること)を受けて天海僧正てんかいそうじょうにより開かれまし
た。2025年が創建400年にあたります。2代将軍秀忠ひでただの時に着工し、3代将
軍家光いえみつの時に落慶らっけい(神社の新築や改築が完成すること)しました。(第三版20
頁、第四版19頁)

問3. 正解 エ

両国の花火は、8代将軍徳川吉宗よしむねが、大飢饉だいききんや疫病えきびょうの流行によって死亡しぼうした多
くの犠牲者ぎせいしやの慰霊いれいと悪疫退散あくえきたいさん(疫病を起こす疫病神の退散)を願って、1733
(享保18)年に催した水神祭と、両国橋周辺の料理屋ばくふが幕府きよかの許可を得て花火を
上げたことに始まるとされています。以降、この両国の花火は「両国の川開き」と
称されて江戸の名物となり、現在の隅田川花火大会につながっています。当初は
鍵屋かぎやのみが上げていた両国の花火ですが、鍵屋から独立した玉屋どくりつが創業たまやすると、
「両国の川開き」には上流下流でそれぞれ花火を打ち上げるようになり、江戸の人
びとは「たまや〜」「かぎや〜」と屋号をかけ声に、花火師うでの腕ほを褒めたたえまし
た。玉屋は、失火による所払いで浅草に移転した後、営業を再開するものの、その
勢いは衰えてついには廃業してしまいます。(第三版27頁、第四版25・109
頁)

問4. 正解 エ

アの鎌倉幕府かまくらばくふは源頼朝みなもとのよりともが鎌倉に、イの室町幕府むろまちは足利尊氏あしかがたかうじが京都に開きまし
た。織田信長は安土あづちに城を築きずきましたが、幕府は開いていません。(第三版18
頁、第四版17頁)

問5. 正解 イ

「猿若^{さるわか}」とは、初期歌舞伎^{かぶき}で滑稽^{こっけい}なものまねなどを演じた役柄^{えん}（道化役^{やくがら どうけやく}）や、それを主人公とした歌舞伎狂言^{きょうげん}などのことです。「猿若三座」のあった猿若町^{さるわかちょう}は、明治5（1872）年に守田座^{もりたざ}が新富町^{しんとみちよう}へ移転するまで、江戸における中心的な芝居町^{しばいまち}（芝居小屋やその関係者が住むところが集まった地域）としてにぎわいました。（第三版27頁、第四版25頁）

問6. 正解 ア

古墳時代^{こふん}の人々は、地面^ほを掘り下げ、柱を立てて、ワラやカヤなどで屋根をふいた竪穴住居^{たてあなじゆうきょ}に住んでいました。イの長屋^{えど}は江戸時代、ウの文化住宅^{じゅうたく}は大正時代から建てられ、エのアパートメントハウス（アパート）が最初に建てられたのは明治時代のことです。（第三版14～15頁、第四版14頁）

問7. 正解 エ

アメ横は終戦直後の混乱^{こんらん}した時代に生まれた商店街です。アの仲見世とウの浅草^{ささげ}広小路^{ひろこうじ}は江戸時代にすでに商店が立ち並び、にぎわっていました。イの佐竹^{さたけ}商店街^{しょうてんがい}は戦前からにぎわいがありました。（第三版42頁、第四版38頁）

問8. 正解 ア

台東区は西側に上野台、東側に低地が広がっています。（第三版12頁、第四版12頁）

問9. 正解 イ

国民学校初等科^{こくみんがっこうしょうとか}の3年生から6年生の児童^{がくどう}らは、学童疎開^{そかい}の対象になりました。下谷区^{したやく}の学校は福島県^{ふくしまけん}、浅草区^{あさくさく}の学校は宮城県^{みやぎけん}へ疎開しました。会津美里町^{あいづみさとまち}は当時の疎開先^{そかいさき}の縁^{えん}で友好都市^{ゆうこうとし}になりました。（第三版41頁、第四版36～38頁）

問10. 正解 ア

江戸時代中期になり調味料が使われ始めると、食べ物を屋台で売る商売が生まれました。江戸時代後期になると、そば・すし・てんぷら・おでん・うなぎのかば焼きなどの料理が考え出され、区内にもそれらを提^{ていきよう}供する有名店^{あらわ}が現れました。(第三版47頁、第四版43頁)

問11. 正解 ア

江戸のまちは火事が起^{ひがい}こると被害が大きくなりやすいので、町方・武家方それぞれに「火消^{ひけし}」という組^{そしき}織がつくられました。当時は水を使って完全に消火^{しょうか}することができないため、風下^{かざしも}の家を壊^{こわ}して延焼^{えんしょう}を防^{ふせ}ぎました。(第三版61～63頁、第四版57～59頁)

問12. 正解 ア

日の出、日の入りのころは捨て鐘のあとに6回鐘をつき、それを「明六ツ^{あけむつ}」「暮六ツ^{くれむつ}」と呼んでいました。午前・午後とも現在の8時ごろに5回、10時ごろに4回鐘をついた後、12時(零^{れいじ}時)ごろは再^{ふた}び9回鐘をつきました。(第三版67頁、第四版56・57頁)

問13. 正解 エ

エは昭和時代に創業したお店で間違いです。江戸時代、市街地^{しがいち}が拡大していくとともに人口は増え、市中には労働者らも集まることとなりました。食事の回数も1日3回と変化し、外では屋台で食べ物を提供するもの、あるいは高級な料理屋なども登場するようになりました。回答のア～ウはよく知られた店となったものです。このほか「駒形どぜう(越後屋助七^{えちごやすけしち})」などもありました。なお、華屋与兵衛^{はなやよへえ}という人物は江戸時代後期に知られた寿司職人^{すししょくにん}でしたが、現在のレストラン「華屋与兵衛」^{ちやくせつ}とは直接は関係ありません。(第三版47頁、第四版43頁)

問14. 正解 エ

段ボールが日本で使われるようになるのは、明治時代以降のことです。（第三版58頁、第四版52～53頁）

問15. 正解 ア

江戸の住民（長屋の借家人を除く）は石高や家の幅（間口）によって決められた水道料金を負担しました。亀有上水・青山上水・三田上水・千川上水は1722（享保7）年に廃止されました。家庭からの排水や雨水などは下水道に流されました。（第三版49～50頁、第四版45頁）

問16. 正解 ア

食料不足が深刻になると、少ない食料品をお互いに分けあう配給制度が1940（昭和15）年から行われました。まず砂糖、翌年からは米や小麦・酒類・魚・塩・みそ・しょうゆ・乳製品・パン・野菜・果物・菓子などが配給制になりました。（第三版56～57頁、第四版51～52頁）

問17. 正解 イ

江戸時代後期の嘉永から安政期（1848～1860）頃、江戸では朝顔が大ブームとなり多くの変化朝顔が生み出されました。明治期に入ると一旦ブームは衰えますが、1882（明治15）年頃から入谷田圃といわれた地域の植木屋が栽培を行うようになります。入谷の朝顔市は江戸時代後期から行われていたものが一度途絶え、1948（昭和23）年に復活して、現在の形となっています。菊まつりは、台東区内はもちろん各地で行われる秋の風物詩のひとつでした。梅園は、亀戸や蒲田など江戸の郊外を中心に、錦絵にも描かれた名所がありました。日本でラベンダーが本格的に栽培されるようになったのは昭和時代になってから、北海道のことです。（第三版72頁、第四版65頁）

問18. 正解 ア

勘亭流^{かんていりゅう}の文字は、1779（安永8）年に、江戸の堺町^{さかいちょう}（現在の人形町^{にんぎょうちょう}）において、中村座^{なかむらざ}が初春狂言^{しよしゅんきやうげん}として演じた題目^{だいもく}を、この書体^{しょたい}で書いたことに始まるとされています。この書体は大好評^{だいこうひやう}で、歌舞伎^{かぶき}と共に全国に広がりました。勘亭流^{かんていりゅう}の文字は「肉太^{にくぶと}で、内側^{うちがわ}にはね入れ、丸み^{まるみ}がある」のが特徴^{とくちょう}です。これは、肉太^{にくぶと}に隙間^{すきま}（空席）なく、内に客^{きやく}を呼び込み、興行^{こうぎやう}の無事円満^{むじえんまん}を願うという縁起^{えんぎ}を担いでいます。見やすく判読^{はんどく}しやすいため、現在でもフォントのひとつとして、よく用いられています。（第三版80頁、第四版73頁）

問19. 正解 エ

ペットボトルは便利な容器^{ようき}で広く普及^{ふきゆう}していますが、日本で最初に使われたのは1977（昭和52）年で、比較的歴史^{ひかくてきれきし}の浅い工業製品^{せいひん}です。（第三版79・81頁、第四版72・74頁）

問20. 正解 ウ

2005年、上野広小路^{ひろこうじ}の地下駐車場^{ち かちゆうしゃじやうせいび}整備^{あたら}のためにこの辺り^ほを掘った際^{さい}、三橋^{みはし}の下部構造^{かぶこうぞう}である石組み^{いしぐみ}の水路^{みづみち}が見つかりました。保存状態^{ほぞんじやうたい}も良く、堀^{ほり}の底^{そこ}に落ちていた貨幣^{かへい}も残っていました。三橋遺構^{みはしいうこう}は、貴重な遺跡^{きちやう いせき}としてその一部^{いせき}が再現^{さいげん}・保存されています。三橋の名前は、現在ではそばにある甘味処^{かんみどころ}「みはし」などに残っています。（第三版92頁、第四版83頁）

問21. 正解 エ

台東区^{むさしのくに}は武蔵国^{むさしのくに}の一部です。「武蔵国」の名称は古代からすでに使われていました。徳川氏^{とくがわ}が江戸^{江戸}に入府^{はくふ}して幕府^{幕府}をひらくと、江戸が幕府のお膝元^{ひざもと}として重要な都市^{都市}であることから、武蔵国は幕府が直接^{ちよくせつ}管理する重要な地域^{ちよつかつち}（直轄地）となりました。（第三版97頁、第四版87頁）

問22. 正解 ア

大名屋敷は上屋敷・中屋敷・下屋敷に分けられ、台東区内では上屋敷が22置かれ、中屋敷・下屋敷は合わせて25前後がありました。上屋敷は大名の家族、中屋敷は隠居や跡継ぎの住居、下屋敷は災害時の避難先や別荘などといったさまざまな用途に用いられました。エの標高は上屋敷・中屋敷・下屋敷と関係ありません。（第三版103頁、第四版93頁）

問23. 正解 エ

現在、隅田川には多くの橋が架かっていますが、多くは江戸時代よりも後のものです。大火災といった災害が起こるたびに徐々にその数を増やしました。それまでは船で川を渡る「渡し」が設置されていました。そうした中、エの合羽橋は台東区生涯学習センター（中央図書館）の建つ合羽橋通りにあったもので、間違いです。ここには新堀川という川が流れていましたが、これが埋められて暗渠となっています。（第三版96・97頁、第四版85・86頁）

問24. 正解 エ

第二次世界大戦前、隅田川を定期運航していた「一銭蒸気」は、吾妻橋から永代橋までを7つの区間に分け、1区間1銭で運航していました。ポンポン蒸気とも呼ばれた「一銭蒸気」の愛称は、広く親しまれ、料金改定後もそのままの名前で呼ばれました。なお、1銭は1円の100分の1にあたります。（第三版90頁、第四版81頁）

問25. 正解 ウ

門前町が成立することによって、その周辺も発展し、市街地化がいつそう進むという効果もありました。（第三版105頁、第四版95頁）

問26. 正解 イ

「花まつり」は、「灌^{かん}仏^{ぶつ}会^え」ともいわれる仏教行事のひとつです。お釈迦^{しゃか}さまの誕生日^{たんじょうび}は、一般的には4月8日とされています。お釈迦さまの生まれた年には諸^{しよ}説^{せつ}ありますが、7世紀ごろに中国より伝来^{でんらい}してから現在^{げんざい}までずっと、日本では4月8日にお釈迦さまの誕生日が祝われてきました。お釈迦^{あまぢや}様に甘茶^{あまぢや}をかけ、甘茶をふるまいますが、この「甘茶」にはいろいろないい伝えがあります。「正しい政治^{せいせい}を行い平和な世が訪^{きり}れると甘い霧^{きり}が降^ふる」といういい伝えや、「飲むと不老不死^{ふし}になれる」という伝説など、いずれもいいもので、甘茶をかけることによってお釈迦さまへの信仰を表しているとされています。なお、「花まつり」という呼び方は、明治時代以降のもので、(第三版119頁、第四版107頁)

問27. 正解 イ

酉^{とり}の市^{いち}は毎年11月の酉^{おと}の日に鷺^{おとり}神社^{じんじや}(地域によっては大鳥神社)で開かれる市のことをいいます。酉^{めぐ}の日は12日ごとに巡^{めぐ}ってくるので、月に2度または3度^{さいれい}の祭礼^{さいれい}です。浅草^{せんそう}の鷺神社^{じんじや}は、もともとは農民^{しゅうかくさい}の収穫^{しゅうかく}祭^{さい}に鶏^{にわとり}を奉納^{ほうのう}したもの、別には農具^{くまで}を売る市^かから発展^こしたものといわれています。農具の中でも「熊手^{くまで}」には「福^かを搔^かきこむ(取り込む)」という意味が与えられ出世や商売繁盛^{はんじょう}を願^{ねが}う人々の人気^{たふく}を呼び、お多福^{たふく}、千両箱^{いなほ}、稲穂^{いなほ}などの飾り物^{かざ}を付けた熊手が縁起物として売られるようになりました。また、食べ物としてヤツガシラ(芋)や切り山椒^{さんしょう}が売られます。ヤツガシラは頭^{かしら}が多いことから子孫繁栄^{しそはんえい}や人の上に立つといった意味、切り山椒は長方形をしているので、「火の用心」の掛け声に用いる拍子木^{ひょうしぎ}を連想^{よぼう}させて、火事の予防としたものです。(第三版124頁、第四版111頁)

問28. 正解 ア

七福神詣^{しちふくじんもうで}は現在^{げんざい}でも人気のある行事で、お正月に多くの参詣者^{さんけいしや}を集めています。(第三版116頁、第四版104頁)

問29. 正解 エ

まないた開きは、二匹の鯉をまないたにのせ、手を触れずに長い箸と包丁で調理する儀式です。（第三版117頁、第四版104頁）

問30. 正解 ウ

明治時代に盛んだった朝顔市は、1913（大正2）年に途絶えましたが、1948（昭和23）年に復活し、入谷鬼子母神（真源寺）境内を中心に朝顔を売る店が立ち並んで昼夜にぎわっています。（第三版122頁、第四版109頁）

問31. 正解 エ

源頼義・義家親子は鎌倉幕府を開いた源頼朝の祖先にあたります。今から975年程前の永承年間に朝廷の命令により今の東北地方の騒乱を治めるために、大勢の家来とともに現地に向かいました。神社のいい伝えによると、隅田川を渡るときに浅瀬の場所を白い鳥が示してくれたため、無事に川を渡ることができたということです。鳥越神社は651（白雉2）年の創建とされていて、日本武尊をおまつりしています。鳥越神社のお神輿は「千貫神輿」と呼ばれ重いことで有名で、宮入の時は提灯に明かりが入り「鳥越の夜祭り」といわれる荘厳な景色を醸し出します。（第三版140・141頁、第四版124頁）

問32. 正解 エ

台東区で唯一の「火渡り神事」が行われるのは秋葉神社です。やや寒い季節の11月6日夕方に神社で神事が行われ、その後、火渡り式の神事は社殿の外で行われ、健康防火などが祈られます。この神社はもともと現在の秋葉原方面にありましたが、そこに駅ができることから移転してきました。神社の名前の由来が神社境内に掲示されています。（第四版111・126頁）

問33. 正解 エ

新堀川^{しんぼりがわ}がたびたび氾濫^{はんらん}して住民が苦しんで^{くる}いたため、合羽屋喜八^{かっぱやしはち}が私財^{しざい}を投げ出して川を広げる工事を行いました。この時工事を手伝ったのが隅田川のかっぱ^な（河童）たちだという伝説があります。（第三版129頁、第四版115頁）

問34. 正解 エ

下谷神社^{したや}は1923（大正12）年、関東大震災^{かんとうだいしんさい}で焼失^{しょうしつ}しましたが、この絵が描かれた後の第二次世界大戦の空襲^{くうしゅう}の際には、まったく損傷^{そんしょう}がありませんでした。日本画の巨匠横山大観^{きょしやうよこやまたいかん}によって描かれた天井絵^{てんじやうえ}「龍^{りゅう}」が神社を火事から守ったといわれています。（第三版139～140頁、第四版123頁）

問35. 正解 エ

琳派^{りんぱ}は先人の作品から学んで画風^{けいふう}や技術^{ぎじゆつ}を継承^{けいしょう}した人たちです。抱一^{ほういつ}の他に本阿弥光悦^{ほんあみこうえつ}・俵屋宗達^{たわらやそうたつ}・尾形光琳^{おがたこうりん}・尾形乾山^{おがたけんざん}・鈴木其一^{すずききいつ}などがいます。フェロノサは明治時代に来日した人物ですので、時代が異なります。（第三版155頁、第四版139頁）

問36. 正解 イ

東京音楽学校は明治時代以降の西洋音楽の発展に大きな役割を果たし、大勢の作曲家や演奏家^{はいしゆつ}を輩出^{はいしちとがほう}しました。橋本雅邦^{はしもとがほう}は画家で、東京美術学校の教授^{きやうじゆ}です。（第三版163・164頁、第四版147頁）

問37. 正解 ウ

黒田清輝^{くろだせいき}は、近代日本洋画の父ともいわれる人物です。1928（昭和3）年に完成した黒田記念館は、当時の美術館建築^{びじゆつかんけんちく}の様式で建てられました。その特徴^{とくちやう}的な外観と空間のデザインは改修^{かいしゆ}後も引き継がれ、現在では登録有形文化財^{げんざいとうろくゆうけいぶんかざい}となっています。（第三版161～162頁、第四版146頁）

問38. 正解 ア

ロッシュは駐日フランス公使、パークスは駐日イギリス公使、ゴローニンはロシアの軍艦「ディアナ号」の船長です。(第三版166頁、第四版149～150頁)

問39. 正解 イ

葛飾北斎は、勝川春章の弟子でしたが、破門されてしまいました。北斎は、様々な画風を学び、90歳で亡くなるまでたくさんの作品を残しました。(第三版154～155頁、第四版139頁)

問40. 正解 ア

明治から昭和の中頃までは、浅草六区には映画館が立ち並び、興行街として大変にぎわいました。(第三版184・185頁、第四版165・166頁)

問41. 正解 エ

花やしき(花屋敷)は、名前のとおり、もともとは花を楽しむ場所で、栽培した花を見せることを目的とした庭園や、休憩のための建物のある場所でした。江戸では、浅草の花屋敷に先立ち、1804(文化元)年に向島百花園ができ、文人(文学や芸術に秀でた知識人)たちのサロンのような場所として、錦絵に描かれたり、俳句に詠まれたりしていました。浅草花屋敷は、やがて動物も見せるようになり、大正から昭和初期には動物園としても知られていきます。1947(昭和22)年、経営不振による紆余曲折を経て遊園地として再開園し、日本最古の遊園地となりました。現在もかつての名前を残し、「浅草花やしき」として運営されています。(第三版184頁、第四版165頁)

問4 2. 正解 イ

1927（昭和2）年に上野～浅草間で開通した地下鉄ですが、これは日本初であると同時に、アジア初の地下鉄でもありました。そのため、「東洋唯一の地下鉄道」として話題を集め、連日多くの人びとで混雑しました。早川徳次は、地下鉄道の事業化計画を、ほぼ彼ひとりの力で進めたといわれ、「地下鉄の父」とも称される人物です。早川は、地下鉄道の必要性を、東京市をはじめ実業家や有識者などに熱心に説いて回り、実現にこぎつけました。開通当初の車両は一両編成。途中駅は、現在と同じく「稲荷町駅」「田原町駅」でした。1939（昭和14）年には路線が渋谷まで延長され、現在の東京メトロ銀座線にあたる全線が開通し、今に続いています。（第三版186頁、第四版166・167頁）

問4 3. 正解 ア

テキストには写真も掲載されていますが、木製信号機は1919（大正8）年に上野松坂屋前の広小路交差点に設置されたのが日本での始まりです。この標識板には「トマレ」「ススメ」とカタカナで書かれていて、当初は手動で標識板を回して用いていました。電灯式のものは昭和に入ってからのもです。（第三版188頁、第四版168頁）

問4 4. 正解 エ

不忍池では、1898（明治31）年に自転車レース、1901（明治34）年にオートバイレース、1902（明治35）年に自動車レースが行われました。どのレースも、日本で初めてのことでした。（第三版180～181頁、第四版161～162頁）

問4 5. 正解 ア

ソメイヨシノは、吉野桜などと呼ばれていましたが、上野の博物館員の藤野寄命により1900（明治33）年にその名が発表され、広く知られるようになりました。（第三版177頁、第四版159頁）

問46. 正解 ウ

寛永寺の「旧本坊表門」は、上野戦争で寛永寺が焼けるまでは本坊の表門として使われていました。この門は焼け残ったため博物館の門としても使われましたが、その後現在の場所に移され、輪王殿の門として使われています。門には上野戦争で受けた弾痕が残っています。（第三版200・214頁、第四版180・194・195頁）

問47. 正解 ウ

ウのリンカーン像が瀧廉太郎銅像の間違いです。この学校で学んだ瀧廉太郎や山田耕筰らは、ここでピアノを演奏したり、歌曲を歌ったりしたものです。東京音楽学校の本館として建てられたこの建物も老朽化したことから、1987(昭和62)年に現在地に移築され、翌年には重要文化財に指定されました。（第三版192頁、第四版172頁）

問48. 正解 ア

一円庵は東京都の有形文化財（非公開）です。江戸千家とは初代川上^{かわかみ}不白（1719～1807）によって始められた茶の道の流派の一つで、三疊台目席とは、三疊の客座と一疊のお点前の座で構成される茶室のことです。茶道では亭主（主人）がお客様の前でお茶を点てふるまいますが、その一連の作法をお点前といいます。茶室の外の待ち合い場所となる^{よりつ}寄付きには丸いいろりがあり、その前の壁には太い柱があり、そこには不白自身の文字が彫られています。（第三版211頁、第四版191頁）

問49. 正解 ア

旧岩崎家住宅は、もともとは江戸の徳川家を支えた^{さかきばらけ}榊原家の屋敷地に、岩崎^{ひさや}久彌が邸宅を建てたものです。洋館は鹿鳴館^{ろくめいかん}の設計で知られたジョサイア・コンドルの設計で、さまざまな様式が組み込まれた折衷様式の建物です。近年、邸宅全体の整備が終了しています。（第三版209頁、第四版189頁）

問50. 正解 イ

この問題の最大のヒントは世界文化遺産に登録されたということです。アの朝倉彫塑館は国の登録有形文化財ですが、世界文化遺産の登録はされていません。ウの東京国立博物館も重要文化財ではありますが、世界文化遺産には登録されていません。エの表慶館は東京国立博物館の敷地内に建設された美術館で、やはり重要文化財ではありますが、世界文化遺産の登録はないものです。正解の国立西洋美術館（本館）は、2016（平成28）年、日本を含む7か国が推薦するル・コルビュジエの建築作品のひとつとして、世界遺産に登録されました。（第三版207頁、第四版187頁）